

・会員番号順に掲載しています。
・添削した形で句を掲載する場合があります。
・投句された回で記載しています。

第29回

オオイスノフグリと
小さなアブ



もしかして太陽が青いから春
早春の蜜の一滴なる蠱惑
あをあをと遠嶺いぬふぐりのぐんぐん
蜜の詩とらへて虻の太き角
虻の口花弁に埋もれふはと房総たまちゃん
たくさんの小さな折り犬ふぐり
花虻に花を頼はず翅のいろ
犬ふぐり揺らぎ寝棺を明るうす
大麻(おおぬさ)の撫でし立春朝搾り
蜜少し次来る虻に残す虻
花の香の柔軟剤かみつばち来
恋のまま後輩である春の土手
相聞の風や春山より寄せ来
犬ふぐり措置入院をしましょうか
虻の不協和音の底に或る死骸

ひでやん
ひでやん
佐藤徳良
黒子
ゆすらこ
内藤半卓
内藤半卓
杜まお美
葉山さくら
原水仙
梵庸子
梵庸子
奈良の真
背番号7

アリエツタへ届ける花粉症の葉
虻止まるちやうど仔牛の目のあたり
グエン君の教科書ヘルビ犬ふぐり
腹這ひてマクロレンズの虻喰る
山刀伐の虻とみちづれ峠越ゆ
七合目けふも渋滞いぬふぐり
受難節ペロニカの手の聖顔布
いぬふぐり青し街宣車かしまし
肉球を洗へばいぬふぐり零る
冬麗や七つめの小石を並べ
峽の日を尽くして爺は蜂を飼ふ
づんづんと犬ふぐり踏む測量士
この角を曲がれば学校いぬふぐり
やうかんがおやつ犬ふぐりばつかり
啓蟄や硬き靴はあたらしき
花虻やあぶらかだぶらあつち行け
空砕き万年分のいぬふぐり
春ひかる赤んぼの爪ほどの花
着信はゼロ後方を花虻来
ゆで卵つるんと剥けて春の野へ
花虻やさあ庭仕事はじめしよう
ドロップ缶の音たのし犬ふぐり
蜜色の腹下させ小さき虻
一叢は夜明けの青やいぬふぐり
犬ふぐり並ぶ都会のプランター
柴犬の尾の揺れ花虻のポルカ 山羊座の千賀子

七瀬ゆきこ
にゃん
にゃん
蓼科 嘉
里山まさ
チリンドロン
竹田むべ
竹田むべ
神保二三
彩汀
彩汀
赤味噌代
西野誓光
西野誓光
花屋英利
トウ甘藻
越智空子
せとみのこ
大和田美信
大久保加州
ちえ
玉響雷子
玉響雷子
ノアノア
山羊座の千賀子

おおいぬのふぐり地球のみづのいろ
花虻は金色の恍惚に透く
したの子の寝ているあいだいぬふぐり
日番の一人お休みいぬふぐり
花虻はベッパミルの丸みなり
ロキソニン噛む花虻の羽音して
えんれいさう輝くものを星といふ 蝦夷野ごうがしや
てふてふや一畝ごとのひとやすみ
先生の明るき声や犬ふぐり
測量や境界またぐ犬ふぐり
犬ふぐり塩辛い涙が痛い
ユニフォームの着方が違ふ春の土
海へ出る蝶や函館はるかなり
花虻やふつつ煮えるジャムの鍋
春園のベンチにうぐいすはんを割る
青空を折つてたんでいぬふぐり
パドックに花の香満ちる一レース
馬追ひかけて春の野のまつたひら古瀬まさあき
赤ん坊のお臍の産毛犬ふぐり
青いはな透けて春日の磨硝子
虻とんでブルーノートの溝に傷
麗らかやほどけては巻く眠き波
登園の立哨当番いぬふぐり
集金の帰り花虻まだそこに
小さき花はほえみ虻を抱きしめる
カーナビや裏へ脇へと犬ふぐり

直
直
青に桃々
青に桃々
海峯企鵝
海峯企鵝
陽光
藤井天晴
城ヶ崎文彬
城ヶ崎文彬
高橋寅次
円堂実花
風早 杏
谷山みつこ
ピアニシモ
灯り丸
そうり
稲垣加代子
西田月旦
眠 睡花
ベトロア
ベトロア
西村小市
びんごおもて

電気代が三万鈍く光る虻
犬ふぐり一人暮らしの子の瘦せて
害虫駆除依頼梅香る隣家より
うららかやルーペで覗く花とあぶ
野遊びす頭陀袋にはパンと傘
試験すむ蹟いておおいぬのふぐり
花虻の眼のひとつぶの蒼さかな
遠洋の風ほどけゆく春野かな
女子はすぐ正論掲ぐいぬふぐり
振り返り雄犬でした春の土手
婆さまの田の土ほこりいぬふぐり
いぬふぐり田の土は田へかえすもの
耳垢のこつんころんと虻日和
カレーの香花虻の居る4時間目
水曜を半分過ぎて養花天
ままごとのパパはボチなりいぬふぐり
いぬふぐり畑の一角くれてやる
校章の光りか草の虻つかむ
短調でも長調でもないいぬふぐり
二度三度かほの花粉をぬぐふ蜂
引つ越しのトラックの下のいぬふぐり
選挙カーに手を振る子らよいぬふぐり
立ちこぎの青青青やいぬふぐり
虻の声やデパートは解体工事
医学書を閉じる春夕焼のベンチ

ひつじ
ひつじ
りようまる
黒江海風
黒江海風
安
磐田小
磐田小
清白真冬
おこその
誉茂子
誉茂子
陶瑤
糸ましけ
幸田梓弓
国東町子
国東町子
百瀬はな
飛来 英
でんでん琴女
でんでん琴女
岡本かも女
大西みんこ
大西みんこ
喜祝音

野仏やいぬふぐり置く小さき指
ポツキーのから箱ふたつ麗けし
胴振るう馬や虻虻虻虻虻
虻の尻ぶるぶる糸電話の微動
いぬふぐり少女漫画の目には星
犬ふぐり盛んきれいな仕事とは
百人の署名朝の犬ふぐり
天気予報の中継眩し犬ふぐり
目に花粉夢ばかり追ふ虻だらう
金青の朝なりけり犬ふぐり
犬犬の陰囊の陰囊らしきもの
虻の眼の間接視野を確認す
書き出しの止まる作文虻の屋
そよ風や雄蕊の虻の脚忙し
げんげ田や登り窠から見下ろせば
犬ふぐりばばば図書係になつた
予定無き我せわしなき虻の脚
空よりも虻の眼の藍深し
おおいぬのふぐり地球の青と白
いぬふぐり喫煙場所は店の裏
蒲公英の絮はギブスの白となり
花虻やまどみちおの詩語んじて
さつきから俺のまわりをやたら虻
犬ふぐり百二百雲居の空
麻布に絵筆を拭ふ春のみづ
今日だけの花を分け合ふ時間、春

小倉あんこ
けーい〇
けーい〇
天陽ゆう
まあぶる
ありあり
みー
絵夢爽子
はれまぶよう
はれまぶよう
あみま
あみま
坂野ひでこ
坂野ひでこ
星登徳円
星登徳円
井納蒼求
義勇和爾丸
Q & A
小鞠
みづちみわ
しずか80歳
みずな
七瀬ゆきこ

押し花を挟む聖五月の詩集
花虻のふるえる金の翅甘し
絶え間なき己が羽音を逃ぐや虻
ストレッチャーの過ぐ虻の羽音過ぐ
渥水の泡ゆたかや花苺
銀翼を広げ花虻着きにけり
春灯り会員制ではありません
スイートピー台詞の多い舞台劇
指笛やそつと春夜の窓開くる
けふからはひとり暮らしや春の月
羽たたむやうに茶房へ春日傘
楽さんの董を犬が追う下町
犬ふぐり隠れてお菓子食べた小屋
橋脚の落書き褪せて犬ふぐり
会議室十一階に迷ひ虻
虻もども花粉まみれの面傾ぐ
香立てへひとつ犬ふぐりたおやか
いぬふぐり下肢不自由な犬を待つ
花虻やいつもと違ふ配達夫
茎立や音無く過ぎる選挙カー
始業ベル花粉まみれの虻をくらへ
先輩の胸に突き刺す花や春
犬まかせの畦そこらちゅう犬ふぐり
鉄橋を汽笛いぬふぐりは青し
スライスのロブは春の風と拍手
草の名の美しき国みどりの日

喜祝音
小川さゆみ
仁和田 永
仁和田 永
いかちゃん
いかちゃん
東田 一帖
東田 一帖
伊藤 恵美
伊藤 恵美
深山むらさき
里山子
あまぐり
あまぐり
このみ杏仁
このみ杏仁
まこ
まこ
もりたきみ
もりたきみ
雪音
三浦にやじろう
香里沙
岩本夏栞
うた歌妙
らねじ

- ・会員番号順に掲載しています。
- ・添削した形で句を掲載する場合があります。
- ・投句された回で記載しています。

いぬふぐり採血あとに小さき痣 聞こえませいぬのふぐりがおしやべりで いぬふぐりゴリラどうやら愛でている	西川由野 あなぐまはる 向原てつ	いぬふぐり十社落ちてはまだこれから 花虻や眠気覚ましのかりんとう 願掛けの朝いぬふぐり踏むしくじり	びん童子 野井みこ 謙久	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	友鹿 出船 出船
花虻や止まぬラ#の耳鳴り 経典に願の字多し犬ふぐり 犬ふぐり柵越えボール投げ返す	平本魚水 平本魚水 中央	虻をやり直したる空広し 鉄棒に逆さまいぬふぐりの空 乳しぼり頭上に唸る虻一匹	夏椿咲く 夏椿咲く 清波	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	出船 出船 翁愁
朝練の一射は外れ犬ふぐり 虻の昼スコアボードに並ぶゼロ 富太郎植物画集春深し	だがし菓子 末永真唯 片野瑞木	みどりごの爪の薄さや節分草 昆虫館冬午後二時の客ひとり 犬ふぐり知らないはずの海の色	五郎八 撰州黒うさぎ 三崎扁舟	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	里すみか 里すみか 里すみか
空へ構え撃つしやぼん玉ランチャー 月曜の縁切寺や犬ふぐり 退学の理由は 一行いぬふぐり	日向あさね 丹波らる 丹波らる	左遷初日路肩の花あぶは呑気 虻に問ふ存在の意味生きる意味 御神木紙垂ひらひらと犬ふぐり	玉乃とらこ 千鳥城 仲間英与	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	野の花 野の花 野の花
生まれざる那由多の息を統べて春 北窓開く抱かれてみたき樹のありぬ 五指凍てて④番バスはオーロラへ	篠原雨子 篠原雨子 海野あを	早春の空へジャズ吹くちんどん屋 陰口つてタサイ虻ある露天風呂 被弾地に瓦礫・教科書・いぬふぐり	ちよきさん 染井つぐみ 染井つぐみ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	飛燕 飛燕 飛燕
新人のバイトおろおろ犬ふぐり 犬ふぐり鶏舎静かに朽ち始む 蕊おほふ花虻神の困遠し	小林 昇 花南天あん シュリ	窓を打つ虻ブレゼンの控室 つと止まるテニスボールやいぬふぐり ネモフィラの揺らぎ花虻みな丸し	超凡 たまのねこ たまのねこ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	廣瀬 康 廣瀬 康 夕佳莉
この痣は私のひとつ犬ふぐり 先生がしかりにくるよ犬ふぐり 贖罪や虻しきしぎと脚を擦る	沢拓庵 沢拓庵 緒方朋子	芝目読むキャップのつばへ冬の蜂 学校は嫌い皆と同じ春 前向きに善処してます犬ふぐり	道小春 たまのねこ たまのねこ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	三月兔 三月兔 三月兔
いぬふぐり部活帰りのカレーパン チェロの音の間こゆる朝や春めきぬ けふさがすけふのしあはせいぬふぐり	紅緒 すみ子 すみ子	れんげの冠さくら子は一歳 生きる事下手に見えるし虻いるし 花虻のとまる地球の明るさよ	呑 栗子 万里の森 中岡秀次	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	古比頼多 鷹見沢幸 くう
悔しさのほろほろ崩る春の海 いじめつ子が今は親友いぬふぐり 老眼鏡かけて花種蒔く夕べ	水蜜桃 ひこ老人 実日子	春の雲蹴つて逆立ち歩きの子 古墳への坂は空へといぬふぐり 虻の腹にふくくる余地のありにけり	橙茶 春野のどか 巻野きやりこ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	高山佳風 星瞳花 星瞳花
風光る洗ひざらしのダンガリー 根拠なき自信がすべていぬふぐり 春淡し最中ちよつびり湿気つてる	角田 球 角田 球 安田伝助	花虻や蜜色の腹はち切れん 春めくや飛びたちさうな送電塔 長距離は見学いぬふぐり揺れて	秋熊 丸山和泉 七朝まるよ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	十月小萩 十月小萩 十月小萩
ひわいろのあさかぜふわりいぬふぐり 複眼の来てふるふると犬ふぐり 虻の羽音や採用の電話らし	山姥和 オニチヨロ とまや	二人きり花虻近き停留所 連翹のにはひ春休みのはひ 家畜車の轍にゆるつと犬ふぐり	なみこまち なみこまち 東歩	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	石川潤子 曾根朋朗 梅野ありさ
握り飯半分食べて虻のきて 花虻の呪文にうつらうつらして 病持て詩を編む心いぬふぐり	こりえのかた 竹いとべ 春花みよし	いぬふぐり戦争したい人がある 暮れかぬる野辺にルーベを忘れけり 空つぼの電話ボックス犬ふぐり	日吉とみ菜 滝川橋 来冬邦子	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	梅野めい 梅野めい しろびー
寒禽や大河は割れて鳴りやまずおかげでさんぽ 花虻は空色が好き風が好き 犬ふぐり自由があつたあの空き地	あけのそら むめも あけのそら	胸とくとく子どもの頃のへびいちご みすゞ忌をあまねく雨やすみれ色 子のこぶし開けばこぼるる春の土	永華 撰田屋 醇道 駒村タクト	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	東ゆみの 骨の熊猫 鯛山陽大
花虻や膝かばひつつ取る箒 道普請又道普請春来る 足跡や盗みの現場の犬ふぐり	長谷川ひろし 電脳庵 リコピン	誰一人通報もせず犬ふぐり 理科室の春はの暗き硫黄の香 この青は今日の青なり犬ふぐり	牧野河 望月美和 林としまる	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	望月とおん 白猫あんず ぞんぬ
お向かいの梅ふくらみて地鎮祭 ペロニカの白衣に映る虻の影 受験なき春よアツサム香る部屋	あいうろ小紋 あいうろ小紋 如月頭花	水色に空は明るし犬ふぐり カピバラのような顔して虻打てり 虻騒ぐ憲法九条は空耳	桜貝 千曉 ジョルジュ	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	清瀬朱磨 まるにの子 想野りょう
そつと触れほろりと落つるいぬふぐり Gパンにペンキの白や虻日和 春の庭音大生の昼休み	せんのめぐみ 葦屋蛙城 風かをる	花虻や頭痛ほどける日の面 出願の生徒黙濃き犬ふぐり タンク車の軋むかたはら犬ふぐり	ふたば葵 みよこ 伊予素数	おおいぬのふぐりをまたぐチワワかな だるまさんころんだと振り向けば虻 春知らぬ仔犬の墓にいぬふぐり	赤尾双葉 嶋村らび 嶋村らび
代替えのある役職や虻の昼 濃厚エッグタルト					

- ・会員番号順に掲載しています。
- ・添削した形で句を掲載する場合があります。
- ・投句された回で記載しています。

選鉦場いぬのふぐりの侵蝕す 立川猫丸
 春昼や喫茶ゴンよりメンチの香 コウ
 いぬふぐり薄墨の影蕊の影 花筆文字
 身長に勝ち負けあるかシクラメン たーとるQ
 吉報に洗うカーテン桜東風 紫すみれ
 花虹にいささかゆるる花茎かな 秋野しら露
 犬ふぐりここか徳川埋蔵金 深町宏
 パサパサの虹の骸に虻二匹 深町宏
 青空へ小窓の数多いぬふぐり 谷川ふみ
 春シヨール退去届を投函す 青井えのこ
 ジャポニカ学習帳はなまるの春 春野鈴菜
 ネタ合わせするのも最後土手青む 咲山ちなつ
 新しきズツクの泥や春隣 出雲のたまちゃん
 いぬふぐり鯨のすきな波の色 慈夢りん
 帰路は爆睡助手席の新社員 芳草
 いぬふぐりちひろの描くこともの目 花豆
 耳打ちのやはらか青き薔薇にほふ うーみん
 ため息を踏めば犬ふぐりの青さ うーみん
 押し花はポピーあの子の理科ノート 志時
 花虹のせはしスマホの指のろし 看倅
 主人公のあの流し目はおでん炊く 田に飛燕
 啄木忌次のバイトへ急ぎけり 千瑛
 複眼に犬ふぐりのあを空の青 朗子
 花虹や鳥に喰われる二秒前 石井青花
 露天風呂赤牛虻は耳を咬む 結城碧都
 墓の列まちがえてまたいぬふぐり ざばん子

鳥曇喰る牛舎の搾乳機 紫黄
 花虹や移動販売今日だつて あさひ
 不用品無料回収犬ふぐり あさひ
 虻型のUFO春の野に給油 俊恵ほぼ爺
 生検の帰りの売地犬ふぐり 春のぼち
 「あぶ注意」秘湯占拠の虻うなる 仁
 寝袋と野原へ家出犬ふぐり 佐倉英華
 産み月の朝や祠のいぬふぐり 小川野雪兔
 犬ふぐり風のにほひに詩の浮力 島田あんず
 早春の土手はひかりのフラフープ 島田あんず
 仔犬らは嗅ぎて去にけりいぬふぐり 津島野イリス
 武器を捨てよ春闈の野に遊べ 津島野イリス
 不発弾埋まる土地らし犬ふぐり 充子
 虻とあるけふの交遊録として 充子
 花虹の眼濁りて人間来 巨航希
 花虹をつつく俳人詠む歌人 巨航希
 ルーキーのボジション争い草青む ゆみさく
 春の風ふぐりゆさゆさブルドッグやしたあきら 葉月庵郁斗
 じわじわと戦火の匂ひいぬふぐり 谷川炭酸水
 犬ふぐりこれが陣痛かも知れぬ 田野こみち
 冬ふかむははのお骨のさくら色 春田寧々
 乳をのむ仔牛の膝よ春の雲 春田寧々
 虻とんで初産の牛の初授乳 望月円
 虻払う納屋の暗所の飼育牛 常磐 はぜ
 花の端を飛びたつ虻の後ろ脚 常磐 はぜ
 ろくろまたぐにやり春月がうるさい 常磐 はぜ

グローブを掠むる打球犬ふぐり 正宗一孝
 虻の音や牛舎の祖父は笑わない 相模乃バンブー
 補助輪をはずし野の虻驚かす 常磐あすか
 速報の竜巻予報犬ふぐり 上村 風知草
 ヴェロニカの蜜血よりも甘く虻忙し 蛙目
 白亜紀の卵の化石いぬふぐり 泉晶子

畑中の古墳一基やいぬふぐり たかみたかみ
 面会謝絶帰るバス停いぬふぐり 山内ブーコ
 つまづいていぬふぐりみたいに笑う まこく
 ブドリの骨ほろほろ春の土となり 雨野理多
 梅日和辛子の効いたハムサンド こちのうめか
 筑前の国の礎梅探る こちのうめか
 求人の子ラシにライン春たつ日 すずきあんず
 花虹の忙しきことや母子家庭 烈稚詠
 犬ふぐり選んで椅子の置きどころ だいやま
 かつてここ実家の裏門いぬふぐり いそのつる
 フアマチキ食いうららかに避妊のはなし 24516
 花虹の観察楽し球拾い はなぶさあきら
 緘黙のあの子のいばしよ犬ふぐり 水豚庵
 弱小部サブグラランドの犬ふぐり 横山雅煮
 クレヨンはずんぶぞらいろ犬ふぐり 津々うらら
 指はさむ植物図鑑はるの土手 朝野あん
 戦場の棺や凍蝶翅を閉づ 灯呂
 強欲なる伯父の余生や春炬燵 福島 サキ
 定律に則る日脚青き踏む 宮康平
 旅まではいかぬ土曜や犬ふぐり 宮康平
 高層ビルの谷底立春の満月 かなかな
 犬ふぐりピアノやめると泣いた日の おおみどり
 明礬の湯に雪友は明日新婦 あおぎりみさ
 朝礼の整列崩す虻ブーブ 赤坂 みずか
 牧開く母の尾ラルゴ仔のヴィーヴオ 文月蘭子
 空の色チャージ犬ふぐりの日課 窪田ゆふ

春近し子ども食堂カレーの香 山浦けい子
 犬ふぐり鬚先生の絵の具箱 七味
 犬ふぐり今日一日を家出とす 七味
 鶯の巢や救命隊の模擬試験 瑞陽庵
 麗らかやチューバの管の掃除終ふ 瑞陽庵
 花虹の眼は黒々と濡れてをる 木原トモ
 虻が出で全ての若き野郎ども 中平保志
 日は永しジャップラウンのボタン付け 林房恵
 脱走の理由の一つ春や今 ふじばかま
 翅壊えし虻へ花粉まみれの虻 葉村直
 早退の川原を夕永きチャイム 葉村直
 過労死や花虹ひとつ塵取へ 理佳おさらぎ
 集会に新入りの猫いぬふぐり 佐藤レアレア
 二拍手に鈴緒の虻の飛び立ちぬ 佐藤レアレア
 紙飛行機ふわりいぬふぐりの海へ そーめんそめ女
 花虹やオペラ座の怪人笑ふ みなごん
 平和とはなべてややこし犬ふぐり なつめ
 悪い子である訳でなし虻ぶんぶん なつめ
 犬ふぐりもうあの子とは帰らない 今井モコ
 引越のトラック停まり犬ふぐり 今井モコ
 いぬふぐり行儀がよくて賢くて 高田ちぐさ
 遺影には若き祖母をり犬ふぐり 高田ちぐさ
 ピクミンは歌うよみんな青き踏め 齋藤ちの
 犬ふぐりここはお風呂場だつたとこ ちゃんこ
 草餅はあるかと移動スーパーへ ザイコン
 花虹の直ぐ飛びつきぬ花手水 立川猫丸

・会員番号順に掲載しています。
・添削した形で句を掲載する場合があります。
・投句された回で記載しています。

第32回

レストランの
ハヤシライス



はつなつのであるとまろべるハンダ棒
ベタに興味訊くか薄暑の庭は照り 佐藤儒良
新緑やグラスの影の芯ひかる 黒子
やはらかきクルトンほどの春愁 多喰身・デラックス
ステーキを切れば血の出る昭和の日 多喰身・デラックス
銀の匙卯月曇に光り出す ゆすらこ
万緑の洋食堂の匙深き 内藤半卓
夏蝶を焼きて情事の匂ひかな 内藤半卓
五月闇シレーの裸婦の眼の中に 杜まお美
新緑の風呂は露天や一人旅 葉山さくら
大銀杏散るテラス席オムライス 原水仙
浅草の夜長よデンキブランまつ 原水仙
むかし海なりき緑雨の交差点 梵庸子
食堂のステンドグラス夏来る 奈良の真
廃校のステンドグラス蝸牛 奈良の真

ガス灯やハヤシライスを母の日に 歩一
万緑やBGMはビートルズ びんごおもて
新妻の薄きカレーや夏近し 小倉あんこ
父の日のカレーライスは酸っぱくて けいい〇
初夏や飾りガラスを翔ぶ天女 満る
夏来る復刻カレーは真つ黄色 満る
惜春の教会びいどろ色の影 天陽ゆう
全き平ら美術館の青芝 白石 美月
店名は忘れたあれは初夏の街 まあぶる
星の名の洋食店のさくらんぼ 千夏乃ありあり
風薫る創業大正十一年 千夏乃ありあり
ピザを待つ卓布に青い夏の影 小川都
ハヤシライスオーダー10の夏休み 小川都
通院の冬あり食堂のうどん もく
入学すお子様ランチはたのまない もく
朱股色のソース注ぐ手震ふ蔷薇 絵夢裏子
初夏のカフェ足元に旨導犬 はれまふよう
夜濯や都会の染みはカレーの香 はれまふよう
噴水やライスシャワーと歓声と 小福 花
舞鶴の軍艦カレー暮れかぬる 小福 花
ソーダ水ロックアウトの学生街 あすかきょうか
ハヤシライスの甘み晩春の風 春菜 燕
薫風や秘伝のルウのワインの香 あみま
記念日は明治の館アマリス あみま
スタバ新作日傘をたたむ妻いとし 渡邊俊
行く春の賄い飯へフィレの端 渡邊俊

夏来るハヤシライスはふた皿目 信茶
秋暑し十円カレーの半世紀 空木花風
志望校一本ハヤシライスで夏 京あられ
新緑や地下の学食にてうどん やまだ童子
菜の花や肉百グラムカレーの日 やまだ童子
路地奥のマサラチャイの香夕端居 つづきののんき
立夏の窓辺グラスの影虹色 森中ことり
遠足のあとのごはんはこのカレー 背番号7
冷コーはカラ退学のわけカララ 背番号7
緑陰のテラス席いま求婚を 夏登さゆり女
白虹や君玉ねぎを嫌と言ひ 風蘭智子
来ぬ人とハヤシライスの昭和の日 風蘭智子
避けられて皿に哀しき夜のバセリ 小池令香
手紙書く緑雨の窓に透けるこゑ 小池令香
新玉葱うすきみどりの感受性 冬鳥 直
大鍋を跳ねる油よ日雷 冬鳥 直
水運ふロボット静か春愁ひ 野山遊
ミルク頼み山小屋文庫がお八つ 青に桃々
図書室の窓辺茉莉花灯りたり 青に桃々
たまねぎの神さまハヤシライスさま 吉野川
正しさは鋭利な刃物青嵐 蝦夷野こうがしゃ
急募なりまかない大盛りつき盛夏 陽光
料理長濁すトマトの仕入れ先 比良山
人参やことも食堂開放日 藤井天晴
隣席は行儀の良い子さくらんぼ しみずこころ
本場の事を言つてるソーダ水 しみずこころ

白蔷薇や銀座のパフェの一口目 坂野ひでこ
子の口へうどん五本目春の旅 坂野ひでこ
愛の日のカフェオサノバの四曲目うからうから 星登徴円
歓待の旗旋信号風薫る 星登徴円
梅雨寒の新天地の蒼きちやんぱん屋 星登徴円
若人よカレーよ歌よ五月来る 大西どもは
グリーンの日除けに響るカトラリー うに子
まかないを褒めて貰へり青胡桃 青木りんどう
春愁を踏み切るカレーライスひりり 橋本千浪
百軒に百種のカレー風薫る 橋本千浪
豆ご飯ありと大家の走り書き お天気娘
ハヤシライスと大きな噴水を Q & A
真つ新なコックエプロン夏近し Q & A
記念日のホテルのランチ緑さす 小鞠
五月雨や扉の多き山猫軒 小鞠
二葉亭を送る初夏の日精養軒 る・こんと
教頭へ届けるサラダ春浅し る・こんと
幸せを測る単位としてメロン みづちみわ
玉ねぎのまるごとほどけゆくスウプ みづちみわ
ブランドの縞の影ある薄暑かな 広島 しずか80歳
ブレインの縞の影ある薄暑かな 広島 しずか80歳
飲み込んだ言い訳ソーダ水の泡 飯村祐知子
しづみみて海底めける夏の午後 飯村祐知子
ふれたれば初夏のあふるる窓硝子 飯村祐知子
レガッタの遠き喧騒ハヤシライス みずな
三者面談あとの学食青葉木菟 七瀬ゆきこ
火を熾すあいつ玉葱剥くわたし にゃん

めじるしは句帖青鳶見ゆる席 城ヶ崎文樞
ハーブティー裏の蔓薔薇見に行かむ 城ヶ崎文樞
聖五月食後にティーとコロンビエ 渥美こぶこ
ウエイターこつち蛙の目借時 高橋寅次
三社祭お子様ランチすら来ない 高橋寅次
山小屋の記帳巻るや青嵐 花弘
玉葱を炒め餡色なる昭和 谷山みつこ
万緑とステンドグラスの黄と空と 谷山みつこ
初めて会う父と真夏のレストラン 沙那夏
冷房の壊れた村の定食屋 ⑦パバ
幸せは居心地悪く蛇莓 ピアニシモ
行く春やハヤシライスは酸っぱくて ピアニシモ
ふるさとや鳶のドライブインつばめ 古瀬まさあき
木洩れ日や呷る万緑てふ火力 古瀬まさあき
青葉風スウィングジャズを飲みほして 卯年のふみ
玻璃越しの茂りもりもりオムライス 卯年のふみ
大鍋は甘口カレーこどもの日 そうり
ショーウィンドウに顔のあとや夏盛り 稲垣加代子
秋の虹ババがいた日のハヤシライス 稲垣加代子
玉葱を焦がさぬやうにご懐妊 西田月旦
扶養者も居て玉葱が透き徹る 西田月旦
玉葱やさぎむ涙をさぎむさぎむ 中村すじこ
「玉葱は自家製」二席のレストラン ペトロア
薄暑光眠れる昼のネオン管 西村小市
ハヤシライス昭和の夏の百貨店 西村小市
レストランの初エビフライ小五、初夏 山川賢茶

郭公やダツチオーブンにはカレー にゃん
レコードの針ブツブツと夏に入る 加納さくろ
子供の日はこれはお酒と書いてある キツカワテツヤ
ランチなら付き合ってくれど初めくじ キツカワテツヤ
勝負飯掻き込みダービー券売機 里山まさを
珈琲のお替り窓に半夏雨 里山まさを
リスボンの一膳飯屋の焼き鯛 里山まさを
春来る面接後のオムライス チリンドロン
茄子きゆいきゆい揉んで今夜は一人酒 竹田むべ
オムハヤシ待つ雑談も無くて虹 神保一三三
オムレツにナイフとフォーク夏来る 彩汀
ものもひに匙止まりたるかき氷 彩汀
母の日のカレー松阪牛甘し こもれび
夏休みソースポットとはとバスと 赤味噌代
中之島を去る日も咖喱沁むる汗 ごまお
万緑を搔つ込むハヤシライスかな 西野誓光
遠ざかる佐渡よ波うつアイステイ 西野誓光
閉店の謝辞貼る窓に若葉揺る 山葡萄
牝牛の心臓のいろ蕃茄選る 小山美珠
階段の化石にふれて夏のよそ 小山羊藻
潮の香の店を出づれば夏煎 堀尾みほ
パナマ帽相席バタの香の陰膳 花屋英利
呼ぶ声の遠く夕焼け二重跳び 夏雲ブン太
青鳶と黒猫の棲む洋食屋 泉楽人
レストラン潰れる凌霄花猛る 越智空子
若葉雨当店今日は貸切です めぐみの樹

・会員番号順に掲載しています。
・添削した形で句を掲載する場合があります。
・投句された回で記載しています。

しづしづと氷菓へ沈む銀の匙 めぐみの樹
 子どもの日ハヤシライスの旗斜め れんげ草
 ロープウェイ運行中止あなごめし 不二自然
 パセリごくんいつ君の手を握ろうか せとみのこ
 天泣やあぢさゐも子もたんと濡れ 伊藤 柚良
 青桐やカフェの二階に脚本家 大久保加州
 長土手の茅花流しや小糠雨 京
 こどもの日回転展望レストラン 小笹いのり
 青鳶の小さきビストロ三代目 山羊座の千賀子
 新規カフェ不味しレタスの緑赤し ルーミー
 マスターの白シャツ珈琲豆の艶 ひつじ
 半休と真昼のビール空は青 黒江海風
 若葉風サイクリストはテラス席 前川雪花
 玉葱や今日は泣いても良い日とす 土井あくび
 新緑の溪谷カフェの赤き屋根 誉茂子
 父と子と珈琲ふたつ秋来る 平井伸明
 全焼の記憶の底を犬ふぐり 幸田梓弓
 おいしいと筆談の友青田風 でんでん琴女
 薔薇散るや検定を終えオムハヤシ 岡本かも女
 貴婦人の刺繍絵レストランは喜雨 大西みんこ
 夕焼や絵画は刺繍だつたのね 大西みんこ
 おかわりのカレー夏めく七合目 喜祝音
 船便で届く葡萄酒星涼し 喜祝音
 ハヤシライス銀座の匂い臘月 宙海(そおら)
 桜桃忌ハヤシライスの肉残す 宙海(そおら)
 素泊まりのホテル晩夏のオムライス ひよこ草

うらぶれた食堂サンブルへ西日 ひよこ草
 桜桃忌スワブをすくふ指きれい 小川さゆみ
 にんじんきらい金色のあじきらい 仁和田 永
 退職の日のBランチ初蝶来 仁和田 永
 父の日のハヤシライスの酸味かな いかちゃん
 玉葱を刻み過ぎたる離婚かな いかちゃん
 熱帯魚きらら都心のレストラン 伊藤 惠美
 山小屋のカレー三日目やまぬ雨 深山むらさき
 楊枝穴三つ新じゃが茹であがる 深山むらさき
 両家会ふ余白涼しき洋食器 東山すいか
 打ち明けようメロンソーダがはじけたら 里山子
 避暑の旅チーズの匂う洋食屋 幸の実
 母の日やステンドグラス青く濁る 幸の実
 吹き冷ますスープの波よ花水 まこ
 ステンドグラス白南風の旧花街 もりたきみ
 カラフェからひかり一滴夏始 雷音
 玉葱の糖度あなたの透明度 池内ときこ
 パフェに刺すスプーン長し花の冷え 碧西里
 海蝕洞めく喫茶店夜の雷 碧西里
 部活前のコンビニうどん夏来る 香里沙
 退職の社食のカレー風薫る 岩本夏栞
 空席のお子様ランチこどもの日 岩本夏栞
 聖母月シフォンの薔薇の室内帽 西川由野
 トが言えぬ吃音トマトが赤すぎるあなくまはる 向原てつ
 母と子の学校ごっこ蝶の屋 向原てつ
 一族に四つの宗派昭和の日 向原てつ

白服やハヤシライスの手ごわくて 英暉
 見習いのコックは無口緑さす 平本魚水
 夏立つや『檸檬』の店のハヤシライス つんちゃん
 珈琲と一眼レフとスコールと 秋白ネリネ
 図書室のPOP書く子やかたつむり だがし菓子
 スイートフェンネル唄んで新樹の異人坂 栗の坊楚材
 梅雨空やカレーがにおうエレベーター 丸山隆子
 春の雨父と会ふ日の銀の匙 山本たか祥
 プリン・アーモンド祖母の日傘はよききで かごゆり
 盲導犬伏すテラス席あおば風 末永真唯
 夏めくや両手で運ぶ空ジョッキ 末永真唯
 なぜこんな店に入った蝸牛 みおつくし
 休暇明け一人で食べるカツカレー 片野瑞木
 新社員光る時計と靴擦れと 桔梗郁子
 じいじまで回す炒飯みどりの日 日向あさね
 花は葉にいつもの喫茶のオムライス 日向あさね
 母になほ嘘つくテラス黒ビール 丹波らる
 食堂のリラ咲く出窓ナポリタン 山女
 陳列窓のハヤシライスへ大西日 ゆりかもめ
 予約席ナイフ艶やかなる白夜 俳句学会
 二日目の咖喱コップに薔薇ひらく 花南天あん
 お子さま椅子に抱きあげられて春の宵 渡辺兎
 かき氷太宰片手の中学生 王朋七
 夏カレー免許合宿最終日 王朋七
 オロポ飲み干して立夏のハヤシライス ツナ好
 噴水の仲裁に入る音一斉 シュリ

薄皮をつるり新玉ねぎの覚悟 かおりんご
 郭公を追ひてスカウトペースかな 沢拓庵
 嗚呼絶飲絶食の朝鳥交る あさいふみよ
 ハイカラは豊かさなりきソーダ水あさいふみよ
 コック帽ひときは白き立夏かな 前田冬水
 二切れ目のケバブまつ犬夏祭 緒方朋子
 白靴と杖ランチはハヤシライス 立田鑑夢
 相席はロングブーツや寺の町 紅緒
 じゃがりこを吾子に供えて春落葉 ひろ笑い
 自撮りてふ己まぢかや水中花 エフ
 カチブチカチ水あばれるコカ・コーラ エフ
 蔓薔薇のカフェにてランチ待つ間 渋谷晶
 玉葱の溶け飯盒の湯気に雨 澄海まさこ
 サイダーの泡の不規則てふ規則 中原イヲ
 致死量の青空ゴールデンウィーク 中原イヲ
 針槐兄お薦めの珈琲館 宇佐
 昭和の日あそこスタバになったつて 宇佐
 打水は店畳む日もクミンの香 ま猿
 夏霞窓際族の回転椅子 若宮 鈴音
 付き添いの七日目若葉透さゆけり 野村起葉
 煉瓦亭行列長し単帯 かりん
 閉園間近パンダのグラスにソーダ水 神木美砂
 来日五年カレー屋の仏桑花 夏椿咲く
 古書を手にかレーや神保町の夏 咲弥あさ奏
 母といた梨の花咲く洋食店 とも
 文豪の通いし店や青葉光 すず

昼飯の列まだ伸びる今日ダービー 摂州黒うさぎ
 新緑を映さぬ匙の水菓 矢口知
 空梅雨や返却ポストふさがれて 一色 那真呼
 銅鍋の木べら飴色の玉葱 千鳥城
 緑陰のジャズセッションや恋敵 千鳥城
 お見合いは街のパラー合歓の花 仲間英与
 残業はしない銀座の木のテラス 小鳥ひすい
 海の家ハヤシライスがあるなんて 甘蕉
 屋上の木馬嘶く日雷 仁葉
 昔のままや井戸と地蔵と著莪の花 縦縞の鳥瓜
 ごつい手に梅酒かららん雨休み 染井つぐみ
 大盛りをずしん立夏のテーブルへ 染井つぐみ
 昼定食遅し首振る扇風機 超凡
 復刻の海軍カレー海ねこ来 揣摩文文
 ドアベルはしづか結露のソーダ水 湯屋ゆうや
 春しぐれジャズミン米の炊ける音 道小春
 アマリリスあなたのスプーンだけが金 藍創千悠子
 風さやかわたしはさふらんらすがが好き 詠華
 数え日のまかないカレーカレーハヤシ 呑 粟子
 ラグビー新歓特盛のオムライス 呑 粟子
 初任給ハヤシライスの席に春 一石溪流
 ハヤシライスしゅばしゅば白服の危機 万里の森
 あとがきを最初に開く初夏のカフェ 出船
 口きかぬカフェ金魚玉見つめをり 泉晶子
 父の日や子供の好きな洋食屋 山田結城
 ティーバッグの糸つんと春惜しむ 里すみか

たんばぼやボンディングの穴に空 里すみか
 麦飯や残留兵を悼む旅 西村まな女
 甘味屋の椅子に正座の旅日永 桜上比呂
 学食のカレー完売夏近し しゆな
 猫の恋再開発の街の夜 しゆな
 クロールの全力メンチカレーの日 高橋みりい
 今日からは一人の散歩初蝶来 高橋みりい
 初夏の窓回転展望レストラン 平松久美子
 藤棚へヘーラー服の昼休み 里春
 サツチモと昭和の路地の姫女苑 すみっこ志牛
 グラスにはゆれ合ふ水桜桃忌 水木合歓
 サングラス外してハヤシライスかなあさのとびら 広瀬 康
 日焼子はジャンプして押す食券機 夕佳莉
 春嵐店主急死の張り紙に 梅菜こいぬ
 白南風や兄弟子きのふ独立す 梅菜こいぬ
 青葉風りすが栗鼠追ふカフェテラス 三月兎
 星月夜祝宴を待つカトラリー 三月兎
 色硝子の喫茶しよばくて汗だくで せいか
 デモ行進白シャツにあるカレー染み 石田将仁
 業務缶うづと暮春のフードコート はなもも
 あんみつ半券光る窓際席 木綿子
 緑さすチェックのクロスのレストラン トコトコ
 葉桜や約束の日のレストラン ビオラ
 並走の貨物列車や山笑う くう
 豌豆は青しハヤシライス甘し 人生の空から

- ・会員番号順に掲載しています。
- ・添削した形で句を掲載する場合があります。
- ・投句された回で記載しています。

午後休のアイスコーヒীগサイズ ひこ老人
 飯盒はふつつ浅間の大夕焼 とまや
 大ジヨッキビリーポーンのピブラホン 池上 胤臣
 たまねぎをさらせばぼすけるけふひとひ 春花みよし
 花びらの内はおそろし鬱金香 石澤双
 木苺の垣根たわわに洋食屋 鞆草子
 六月のステンドグラスに沈む碧 鞆草子
 秋天や牛の丸焼きワイン祭 空はる
 夏草は放置カレールイス喰らう 全速
 販促のレトルトカレールイス喰む西日 全速
 風光るパフエの地層を解析す 深幽
 青葉風立ち学食のＡランチ リコピン
 夏さざす最上階の洋食屋 如月頭花
 皆がただ書を読むカフェよ戻り梅雨 あいろ小紋
 カフエテラス夏服の行く犬の行く せんめぐみ
 円卓の半券ずらりことももの日 橙茶
 桜薬ふる防疫の動物園 巻野きやりこ
 風青し薄暗き社食に集う 巻野きやりこ
 書肆のレストラン広き窓は緑雨 小米
 ギャルソンのベトナム訛り燕来る 浅海あさり
 浅海あさり 浅海あさり
 広東語さざめく学食は五月 花星壱和
 ボサノバの流るるカフェや夏に入る 西山歩
 カフェ最寄り三番出口ラベンダー 風音
 浅草の雑踏逃れかき水 長月晴日
 風薫る本日無職となりけり 村瀬つち
 この皿にバセリ一片あらば恋

きみがため玉葱とけてしまひけり 村瀬つち
 新入生の讚美歌ばら窓光る 玲花
 ガーベラとホテルのカレー式前夜 玲花
 新緑や小さき泡満つプロセッコ むい美縁
 万緑やヴェネグレットの香り立つ なみこまち
 万緑の延長線のマティスかな 東歩
 切れさうな裸電球カレールイス 東歩
 球場の歓声見下ろしソーダ水 ルージュ
 球場の歓声見下ろしソーダ水 ルージュ
 Aランチ緑雨の窓とエンドロール 日吉とみ菜
 春濤や横須賀「本日カレールの日」 原島ちび助
 春愁やビツフェの隅のキーマカレール 木村あずま
 そら豆やみんなしやくれて茹でられて レディ咲瑠恋
 オムレツにケチャップのM聖五月 レディ咲瑠恋
 半ドンの学食置き去りのコート みなし栗
 黙食のレストランクリスマスツリー みなし栗
 薔薇の花ハヤシライスはやよそし ミシコフスキー
 フアマチキ200円春闘なんてなかった まりも
 本革のメニュー癖字の缶ビール アツヒコ
 匙ひらりミルクセキキの玻璃しとど 摂田屋 醇道
 遠雷のカレール屋皿の音高し 紫月奎丸
 海の日サナトリウムの小声かな 駒村タクト
 お見舞ひの帰りに父とビヤホール 駒村タクト
 学食は煌々夜学の授業前 春海凌
 留袖の老いも若きもソーダ水 望月美和
 春夕や花婚の乾杯はロゼ がいさんたかし
 木の椅子は硬し復活祭のバザー 夏の舟

海色にストローは夏めく角度 山内彩月
 軟飯と粥の炊けよる春茜 ふたば葵
 しゃがの花スーブ自慢のレストラン 和み
 触れ込みは秘書たとかいうサンドレス 十月小萩
 掃省子に問えばぶつきらばうなカレール 十月小萩
 屋上のジャンブルジムへ揚雲雀 花はな
 聖五月洋書の書架の仄暗き さつき
 夏の夜のレストラン密航の下見 mayu
 月一のランチは日比谷夏木立 梅野めい
 夏の日や教室は直線ばかり ゆうじい
 夏草や野球も上手い洋食屋
 石楠花のめしべはレ点退院す くるすていーぬ
 百合さざめく音楽堂のレストラン 草野ふうこ
 五月雨よあと半周の観覧車 蕃茄
 謝罪後の定食口に入れ夏日 しいか
 でで虫や不定休なる洋食屋 骨の熊猫
 溽暑なり四升炊きの釜は噴く 藤本花をり
 シルバーのスワブスプーン夏館 藤本花をり
 玉葱を刻む見習ひシェフの黙 藤本花をり
 遠雷や空のコップの音ことん。 望月とおん
 子供つてたまに残酷葱坊主 星子
 復刻メニュー母の日のテラス席 たまさもち
 玉葱を剥く髭面のカンツォーネ 白猫あんず
 春蘭けぬ聖画の昏きサイゼリヤ ぞんぬ
 路地裏のバタチキカリと新社員 堂園 穂世
 今日はまだ花冷えの未結婚喫茶 堂園 穂世

雨の森桜焼くレストラン 舞重あづき
 角打ちに父と連れ立つ夏夕べ 紅三季
 かなしみが幽霊になりかけている 嶋村らび
 アイスティーここへ押印する話 嶋村らび
 緑蔭のカフエテラス光る白皿 たかみたかみ
 ステンドグラスの青満ちて立夏かな たかみたかみ
 ヒール減る夏日かき込むハヤシライス まこく
 隊服の真白や海は夏兆す 雨野理多
 クリームソーダ前髪切つたらしき君 雨野理多
 母の日のハヤシライスと銀の匙 由紀子
 顔合わせ初夏の銀座の洋食屋 風の木原
 春愁や花眼の見入るワインリスト 風の木原
 水つばいカレール煮詰めるキャンプ場 こちのうめか
 山小屋の名物カレール明日登頂 すずきあんず
 こいつの時給一、二〇〇円アイスティー くるぼー
 ニンジンの乱切り粗し雲の峰 くるぼー
 豆挽いて五月雨聴くやべ切日 烈雅詠
 しやしあやあとメロンソーダを吸う女 烈雅詠
 朝食のスパイス吸うて大試験 紅紫あやめ
 レードルはゆつくり溶けゆく春愁 はなぶさあきら
 諸葉言葉少なな面会日 太之方もり子
 招かれて白きナブキン風光る 藤子
 春の風先輩からのハヤシライス べにりんご
 スプーンの轍残して初夏の皿 高田祥聖
 ひみつってなんだか母の日のカレール 高田祥聖
 馬鈴薯の花続く丘雲ひとつ 千里

七月の太陽色のオムライス 水豚庵
 風鈴や後継ぎおらぬ洋食店 水豚庵
 メーデーの熱気半熟オムライス 横山雅煮
 老鶯やダッチコーヒールやをら落つ 津々うらら
 女王めく彼氏の母の夏帽子 津々うらら
 春の灯は祈り五島の教会群 井上れんげ
 出汗の香のフェリー乗り場や夏近し 井上れんげ
 路線図を読み取れぬまま春夕焼 庭野利休梅
 バイト明けのライス大盛り蚊遣香 白秋千
 デパートの消ゆる駅前走り梅雨 福島 サキ
 天板のガラスの傷や夏はじめ 宮康平
 開演を待つ昂まりやソーダ水 あおみどり
 夏帽子カシニョールめくチェリーパイ 文月蘭子
 ドビソースに玉葱艶やかに絡む 窪田ゆふ
 蔦茂るフレンチの重たいフォーク 木香
 ドアベルの余韻若葉風の行方 明後日めぐみ
 暑気沈むテラス席へとトムヤムクン 福原あさひ
 亀鳴くやコロツケ買って酒買って 俊恵ほほ爺
 ソーダ水でつちやんの消しゴム盗って 俊恵ほほ爺
 教会のバザー汗ばむ掌(て)の百円 俊恵ほほ爺
 学食のケチャップ鮮やかに盛夏 もりのもりす
 閉店の知らせ滲んで梅雨に入る 春のぼち
 クレヨン匂い楊枝の鯉職 小町ちまこ
 緑さすフルートグラスに上る泡 仁
 コンドルの洋館のカフェ鷗外忌 仁
 入学や銀座スエヒロハンパーク 佐倉英華

・会員番号順に掲載しています。
・添削した形で句を掲載する場合があります。
・投句された回で記載しています。

卒業の賄い飯は大盛に 屋顔や君の聴こえるほう座る 記念日のハヤシライスと白シャツと 緑さすカフェにひとりの休息日 紅薔薇の花束スプン落つる音 蝉時雨あたしカレーのはずだけど スプーン置きりルケ繰る指に春光 サメも子もはらべこ春の水族館 メーデーやB定食の湯気高し 五月雨やスプーンにナプキン巻く夜 二冊目の血圧手帳春惜しむ 厨房の怒号マダムのレストラン 薔薇の雨アンティチョークをたのむ奴 出席の文字を潰せり風死せり 学食のハヤシライスや春の風 祖母宅のステンドグラス梅雨の蝶 黙食の芽キヤベツ残す子が二人 珈琲を飲みて図録をめくる初夏 ディナークルーズ梅雨の夜風つややかに 初夏のひかりをかへすフオークの背 滝涼しカフェのデッキに椅子ふたつ 馬鈴薯は手掴み二歳カレー好き カレー掻き込む真夏日の陣痛 桃の花歳ふる妹の母に似て 東京の春ハヤシライスは七百年 連翹の迎えるカフェのBランチ	小川野雪兎 小川野雪兎 美湖 島田あんず 充子 月野木 舞 月野木 舞 月野木 舞 巨航希 ゆみさく やしただあきら 葉月庵郁斗 田季たまき 田季たまき 田季たまき 三宅 光風 星私 虎亮 ふづきかみな 錆鉄こじやみ 田野こみち 常薯はぜ 麻麻 木乃芽依 とひの 花穂 道工和 野薔薇 草菜	谷川ふみ 谷川ふみ 卯波まり 卯波まり 青井えのこ 青井えのこ サリイ 咲山ちなつ きさら 瑞々 茜 たじまはる 浜千鳥 慈夢りん 創次明 月季 紫 月季 紫 みわか わみ 木野桂樹 みえこ ユリノキ ユリノキ
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

色硝子越しの日射しや夏浅し 掃骨渋滞相席のカツカレー もの煮ゆる音静かなる聖五月 上京の姉の沈黙どちやうなべ 窓拭きの窓すきとほる新社員 福神漬はおのが位置しめ夏きざす 口溶けるオニオン鈴は客を告ぐ 記念日の噴水見ゆる予約席 異国語の交じる厨房クレマチス テーブルも箸も透けたる夏料理 学食のカレーに卵夏来る こどもの日黒船亭のハヤシライス 慕仕舞いあつけらかんと夏は来ぬ 三社祭尾張屋に荷風がない 風薫るジャズのもれくる洋食屋 羊骨の透くまで短夜を煮込む 人間に過食といふ死雨の夏 飯屋の列長し麦酒頼む決意 手つかずの皿や薄暑のオンコール お目当てはハヤシライスや避暑ホテル フランベの猛き旋律夏の夜 春の香を殺いつばいにエスカルゴ 受け箱の朝刊にしわ蔓の薔薇 ハワイアン流れる町の冷やし中華 長春花山のホテルの銀の匙 春の夜これを最期の飯とする	白猫のあくび 翠雨 緑明 めいめい ぼっぱ 柚木 啓 惑楽 岸野ゆり 四季春茶子 居並小 含 只野 竹庵 くさもち 葉村直 葉村直 水きんく 丘るみこ 佐藤レアレア 中野史子 凛ひとみ	看做しみず 看做しみず 雪花 水鏡新 ひなこ どっこ 千瑛 ツル紫 神山千世 鈴木そら 鶴富士 はな糸 清 桜入 清 桜入 音無浮草 音無浮草 音無浮草 糸歩 なみきたか 清水鶴午 正宗一孝 光 光 あきの風さん
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

薫風や握る復職証明書 五日目の秋刀魚定食はる苦し 休憩室のレモン水が喉に痛い 鍋底の焦げたハヤシの香や薄暑 ハヤシライスとゼクシイと夕焼と ゲバ棒を捨て新涼の背広買ふ 薫風やドア開け放つ老舗カフェ くだらない映画の話らつきよ食う とりどりに光瀟したる利きビール 白似合う人よ氷菓の硬き角 梅雨寒を崩るるブイヨンの骨よ カツカレーがつつセラニニム咲う 満床の新生児室薄暑光 屋上の食堂に列南風 花時やワンプレットにロゼワイン 蝉時雨恐竜カレーの列に居り パフエ選ぶ母よそ行きの春シヨール 褒めるのが上手い探偵アイステイル 立山を見上ぐる角度みどりさす 夏空や光を撥ねるカトラリー 玉葱をベリリ占いは十二位 主旋律走る夏瘦のスーザフォン 藤ゆれる小径辿ればレストラン 健診日帰りに鰻食うてやる 青春よ君がパセリを食べたから 皿洗う音だけのカフェ花水木	今井モコ 喜多文 齋藤ちの コンフィ コンフィ 喜多郎 立川猫丸 花筆文字 花筆文字 たーとるQ たーとるQ うくちゃんま のりこ パト子 ちえりびー ちえりびー 松男 秋野しら露 秋野しら露 深町宏 深町宏 野紺菊 松本厚史 柿司 十六 陽風水	風知草 入道まりこ 蛙目 千寿 ココ 春野つくし やぎみか 幸島猿子 勇緋 勇緋 奥伊賀サブレ ミッコ 海老名てんでん 夏村波瑠 美織 細川鮎目 小花 華柊 藤央 天雅 砂月 翡翠工房 渡海灯子 田原うた 猫すきん 猫すきん ぜのぶるうと
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ごほうびの温玉のせて新社員

丸井たまこ

藍色の皿にタルトと木苺と

丸井たまこ

穀雨なり地産地消のサラダバー

松の芯

おためし保育預けて春のタイカレー

百瀬一兔

教会のステンドグラス梅雨晴間

日光月光

検査後のハヤシライスや風薫る

日光月光